

# 高松塚古墳仮整備基本計画案

## 1. 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会の確認事項

平成17年6月の第4回検討会

「現在の石室内の環境において保存することは困難」とし、「石室を取り出して解体修理を行う方法」が適当とした。

平成18年2月の第5回検討会

発掘調査と解体の作業工程が確認された。

### 恒久保存方針

古墳から石室を取り出して、「解体修理」を行うこと。

- (1) 石室ごと壁画を古墳から取り出す
- (2) 取り出した石室を適切な施設において、壁画および石室の修理を含めた保存処理を施す
- (3) 将来的には、カビ等の影響を受けない環境を確保し、現地に戻す

### 恒久保存方針における工程

- (1) 石室解体工程
  - (2) 壁画の修理および保存処理工程
  - (3) 恒久保存工程
- (3) 「恒久保存工程」の具体的な内容は、(2)「壁画の修理および保存処理工程」の段階で壁画の状況を勘査しつつ、検討会において検討を行うこととする。

## 2. 仮整備の考え方と期間

解体修理の前提が、取り出した石材を修理・保存処理して現地に戻すことであり、石室の保存処理が終わるまでは短くとも約10年の期間を要する。その間の環境整備が仮整備となる。

仮整備は本整備とは切り離して考える。

なお、本整備前の実験は必要に応じて別の場所にて行うものとする。

### 3. 仮整備計画に際し、考慮すべきこと

・「発掘調査計画」では、石室の解体のために設ける上段調査区は南北 7.2m、東西 6.0m、下段調査区は南北 5.2m、東西 4.0m としている

・墳丘、発掘区の断面など遺構保存を確実に行う

・高松塚古墳周辺の利用状況

平成 17 年度 国営飛鳥歴史公園高松塚地区利用者数	232, 094 人
----------------------------	------------

公園館利用者数	58, 184 人
---------	-----------

壁画館利用者数	118, 304 人
---------	------------

・仮整備期間においても可能な限り公開、活用を図る必要がある

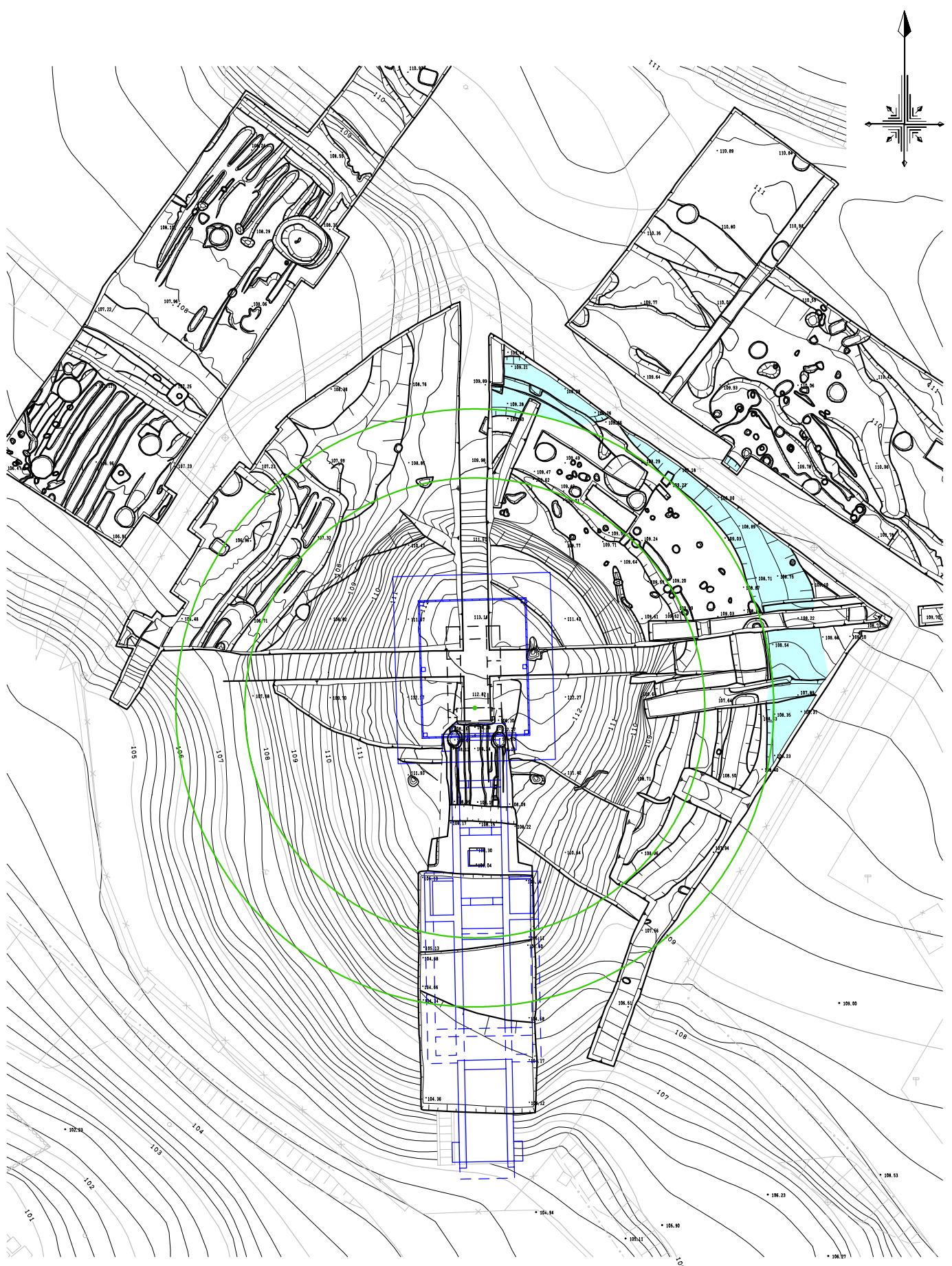
### 4. 発掘調査成果の概要

・二段築成の円墳

・墳丘径は下段 65 大尺 (23.0m)、上段 50 大尺 (17.7m)

・周溝を北東部で検出

・石室が南西に向かって約 1.5° 傾斜している



## 平面図(遺構 + 現況 + 復元図)

6

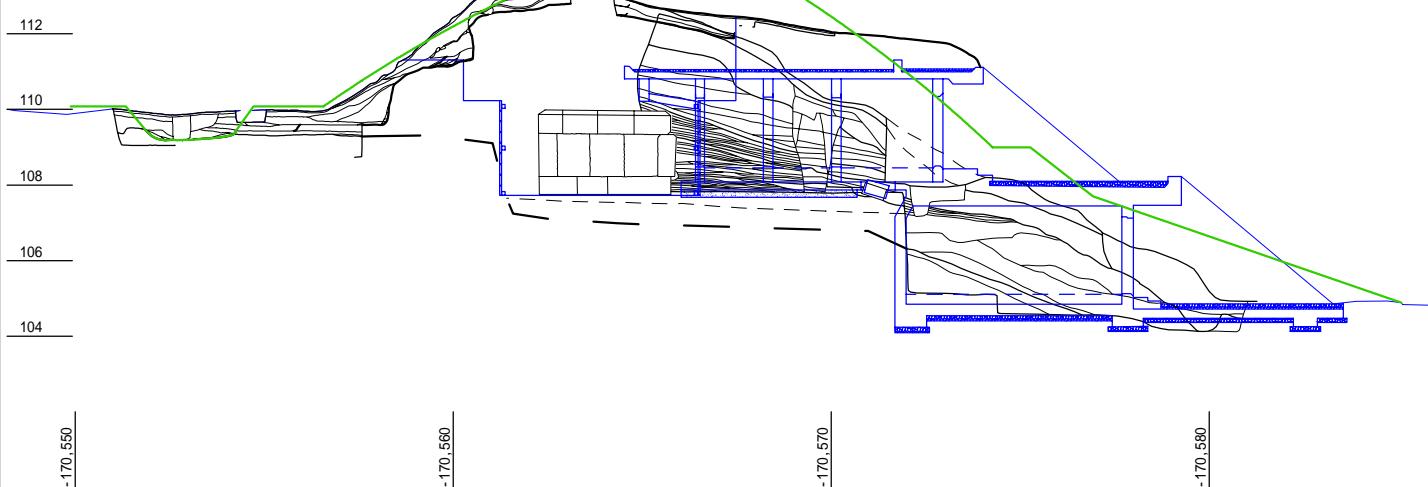
10

20 m

1 : 200

北

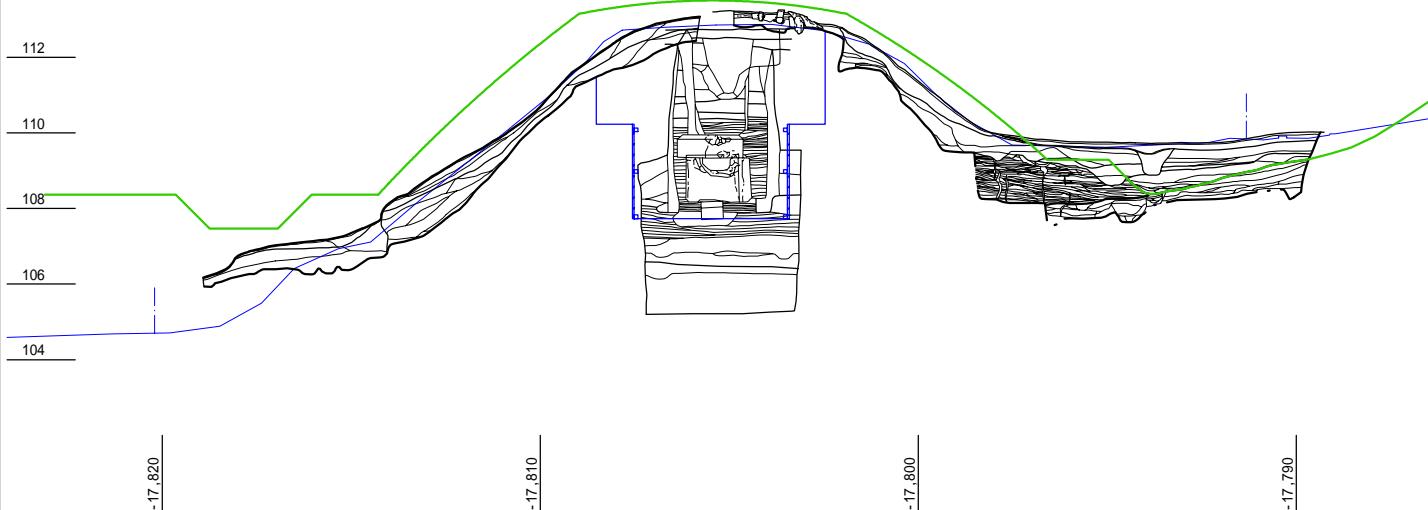
南



南北断面図

西

東



東西断面図

断面図(遺構 + 現況 + 復元図)

0 10 20 m  
1 : 200

## 5. 高松塚仮整備検討項目

石室	石室レプリカ	解体実験レプリカ
	入れない	新規復元レプリカ
	入れる	復原的(水平)に設置
	石室の設置	復旧的(傾斜のまま)に設置
	石室設置標高	原位置
現保存施設	閉塞石の扱い	かさ上げ
	壁面	入れる
		はずす
		描かない
		描く
墳丘	現保存施設の取り扱い	
	維持	利用せず、本整備時に撤去する
	撤去	石室レプリカの公開施設として利用する
	埋め戻し	・本整備での工事に支障のない材料、方法でおこなう
	防水	・防水シートなどを設置して雨水の浸透を防ぐ
地被植栽	支保工の扱い	・遺構保存と本整備での工事に配慮し、支保工は撤去しない
	盛土形状	・発掘前の形状に戻す復旧的な盛土を行う
		・可能な範囲で復元整備する
		・墳丘、周溝を復元整備する
	地被植栽	・芝などを植える

## 6. 高松塚仮整備案

	石室レプリカ	現保存施設の扱い	墳丘の形状
A案	なし	維持	復旧
B案	なし	撤去	復元
C案	設置	維持、転用する	部分復元

## 7. 各仮整備案の概要

(○長所／●短所)

### A案

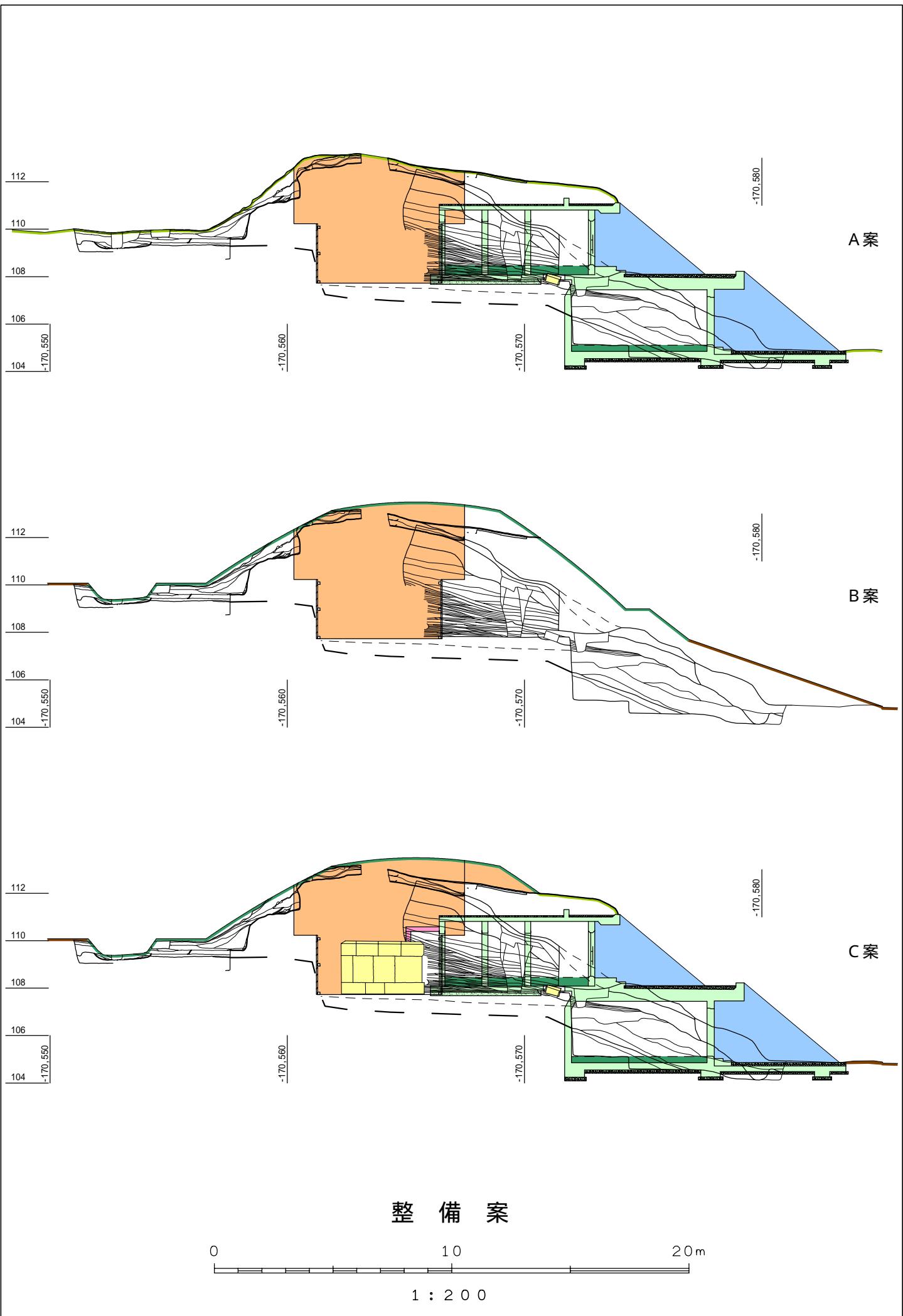
- ・発掘区は埋め戻す
- ・現保存施設は撤去せず、公開もしない
- ・墳丘は復旧程度の盛土と張芝を行う
  - 最低限の整備費で抑えられる
  - 遺跡の活用の観点からは、従前の状況と変わらない

### B案

- ・発掘区は埋め戻す
- ・現保存施設は撤去する
- ・墳丘・周溝は復元する
  - 墳丘の本来的形状を見せることができる
  - 現保存施設の撤去時と本整備時の二回、墳丘断面を露出する必要がある

### C案

- ・石室レプリカを本来の石室位置に設置し、公開する
- ・現保存施設を見学施設として利用する
- ・墳丘は可能な範囲で復元整備する
  - 石室本来の位置へレプリカを設置することにより臨場感のある公開活用を図ることができる
  - 本整備において保存施設の撤去と新設を一度に行うことができ、遺構に与えるダメージは少なくなる
  - 全体ではないが、墳丘の本来的形状を見せることができる
  - 現保存施設が復元する墳丘よりも突出する



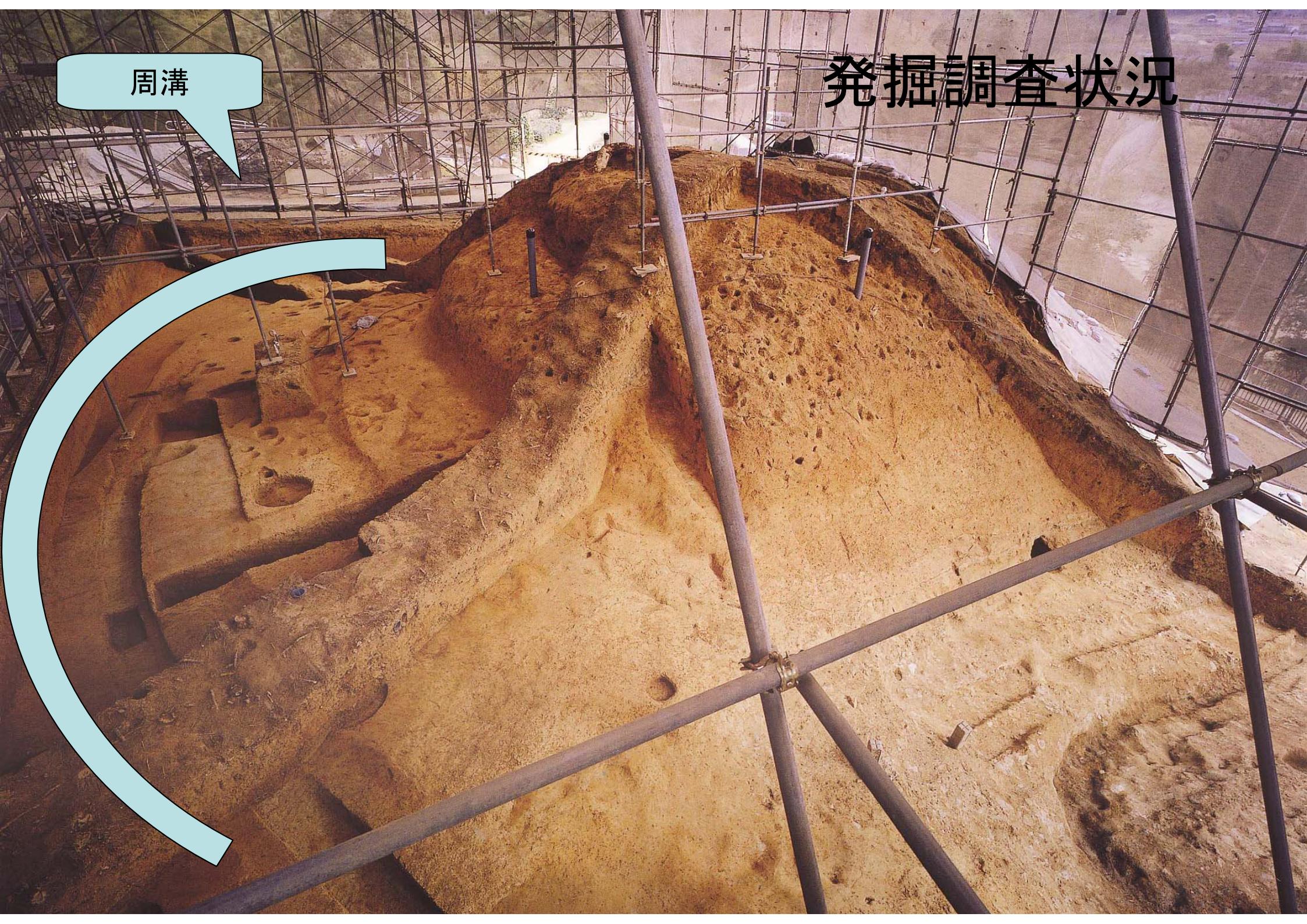


# 高松塚古墳仮整備基本計画案

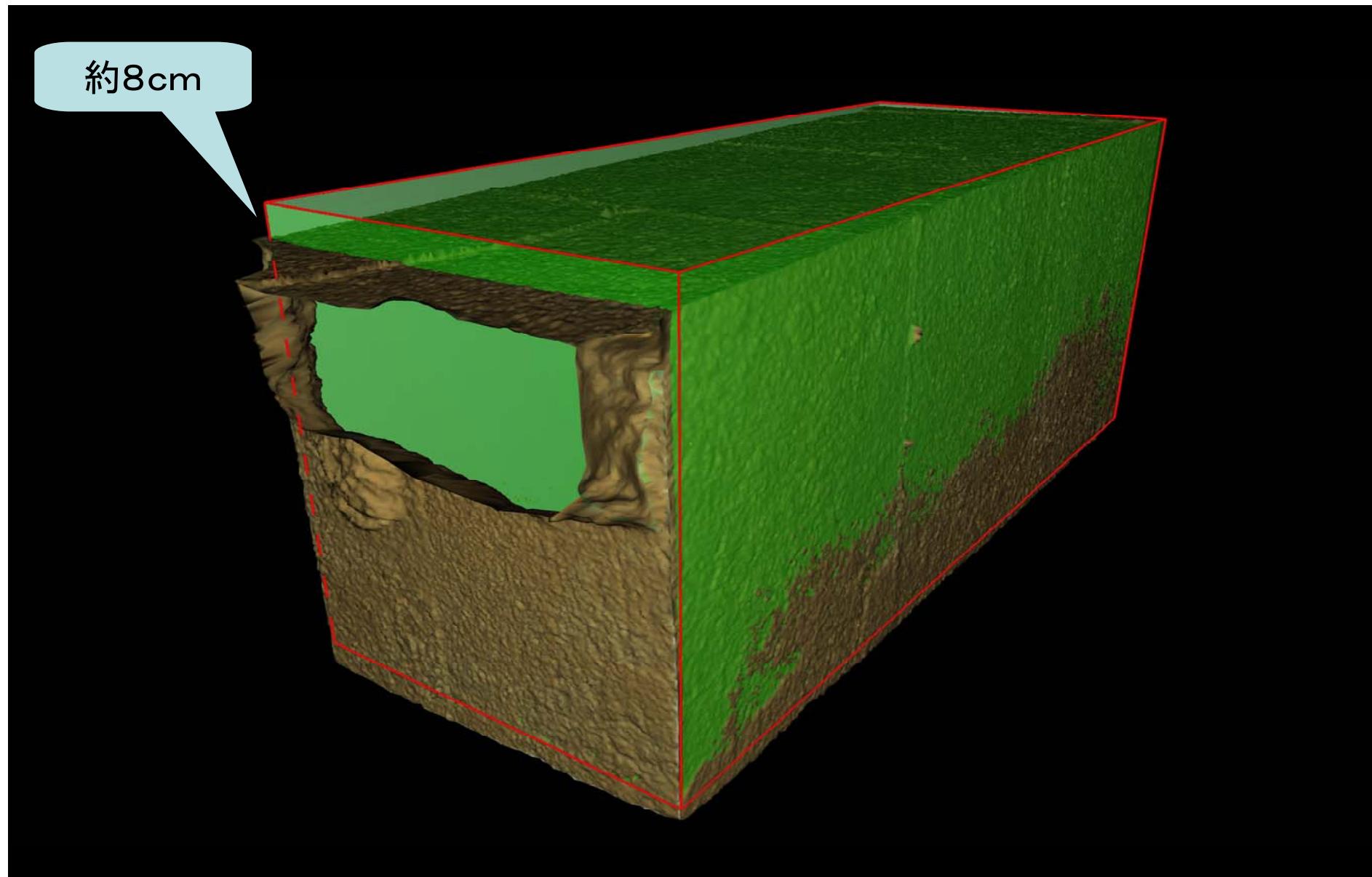
20060719

# 発掘調査状況

周溝



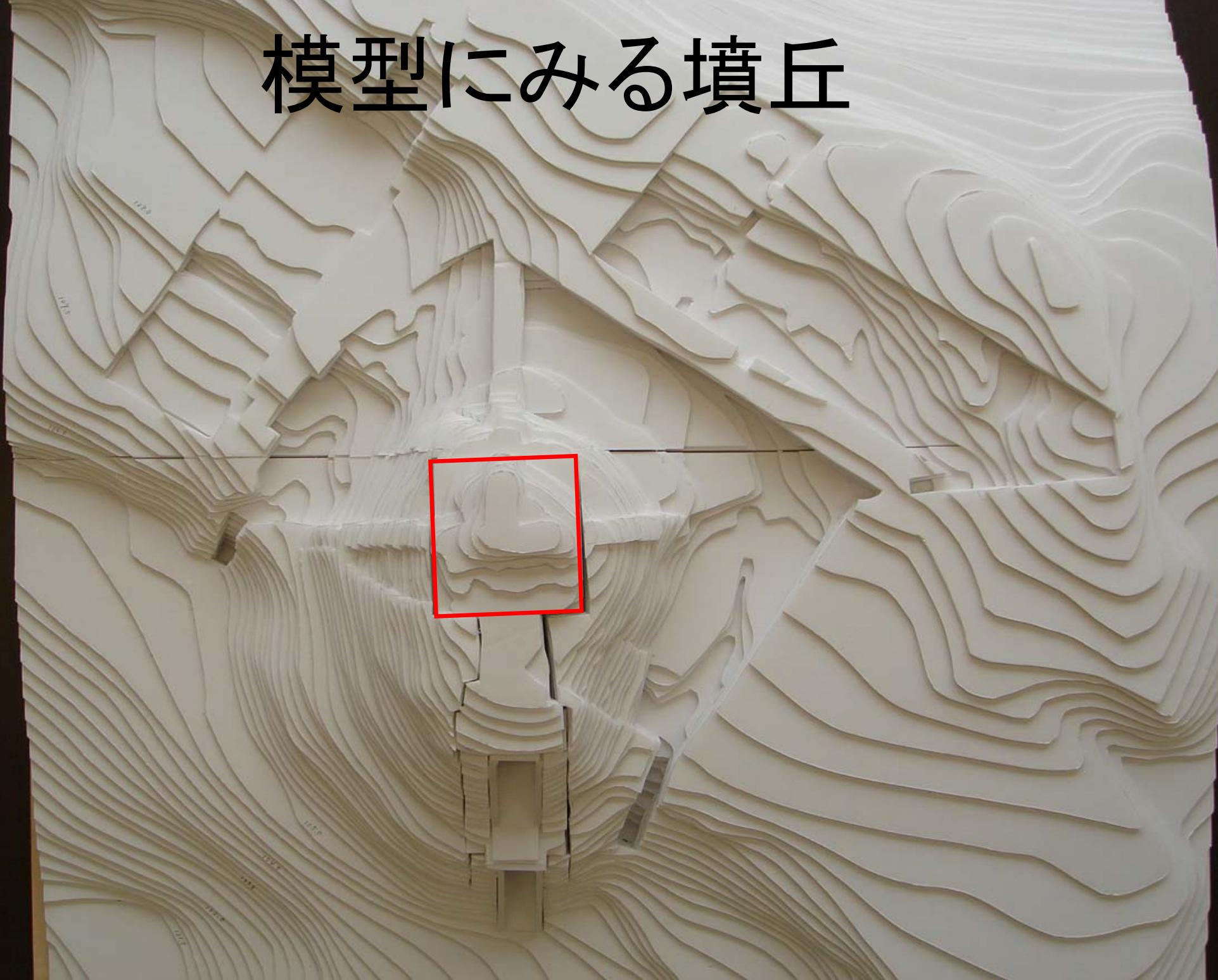
# 南西へ傾いた石室



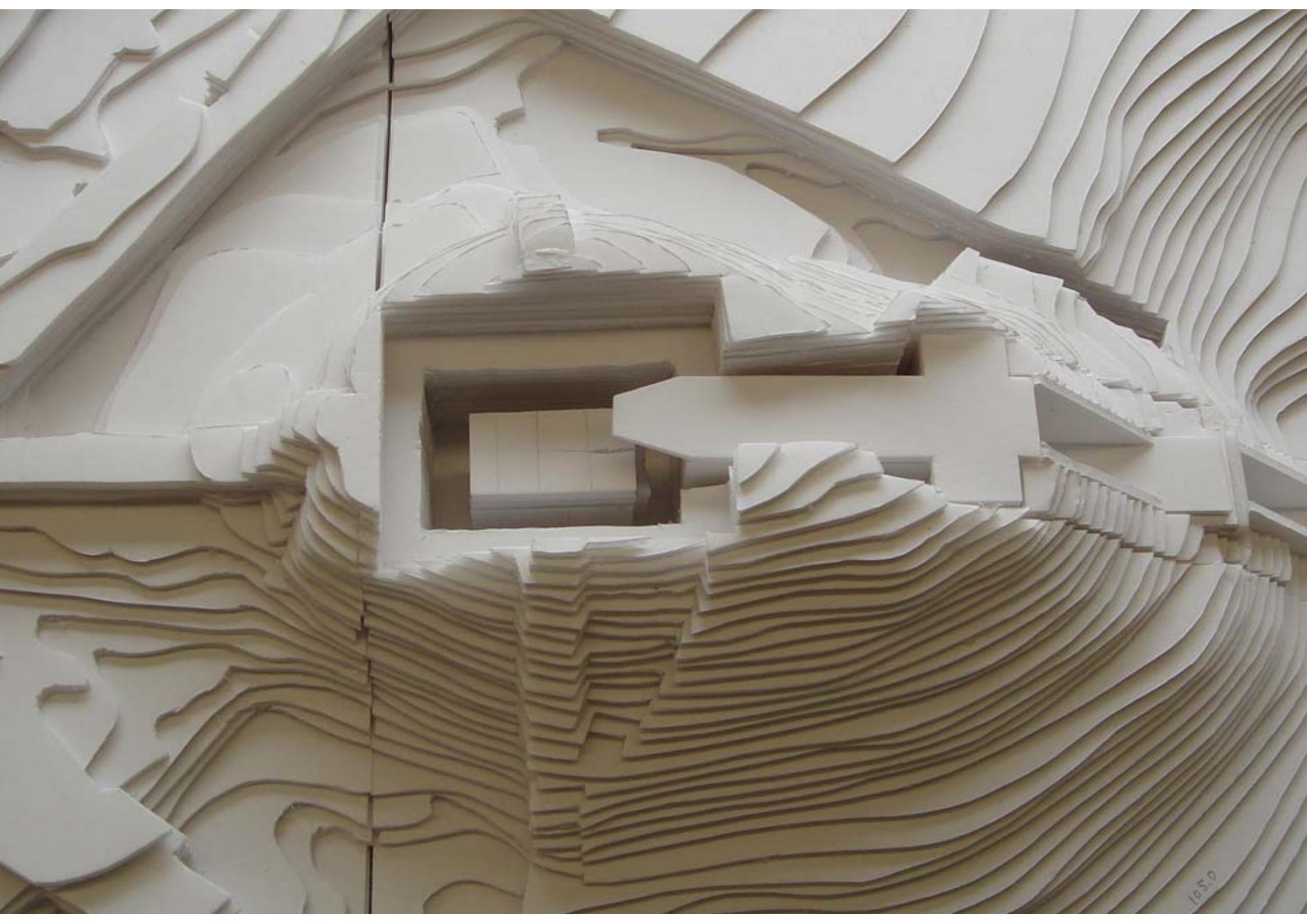
# 石室 解体実験

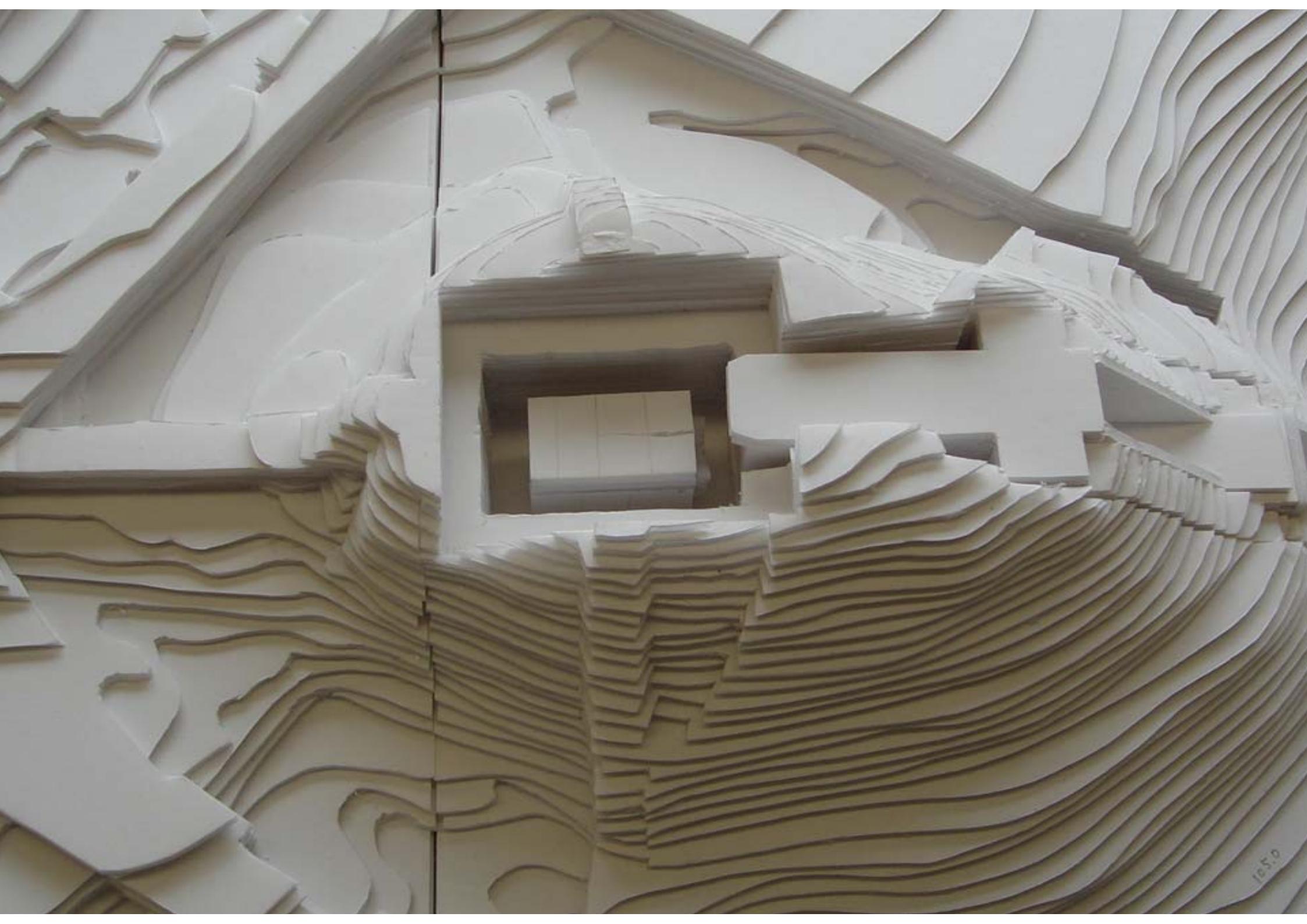


# 模型にみる墳丘

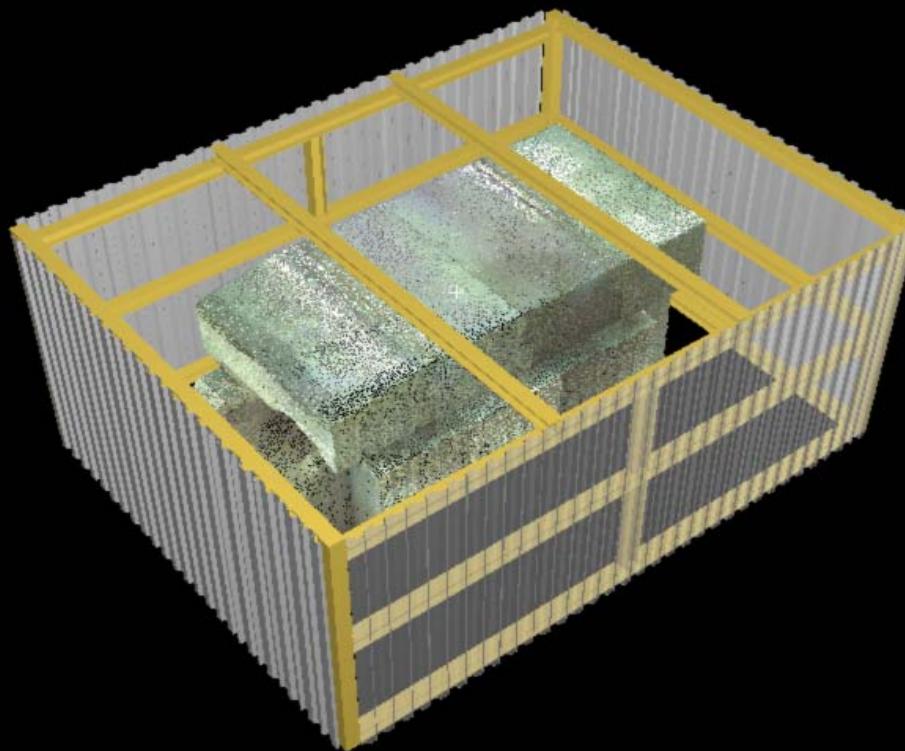




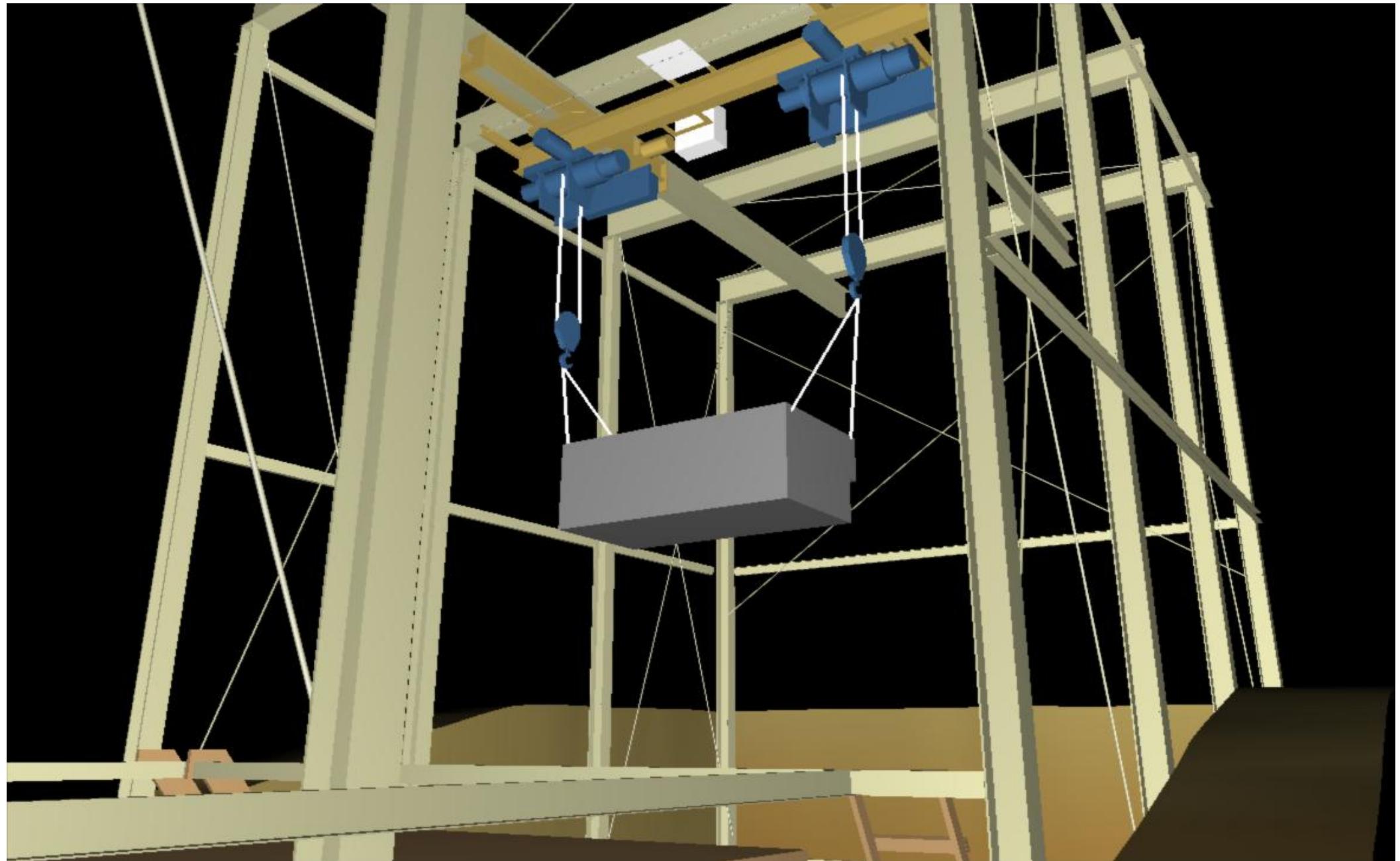




# 石室解体時の支保工



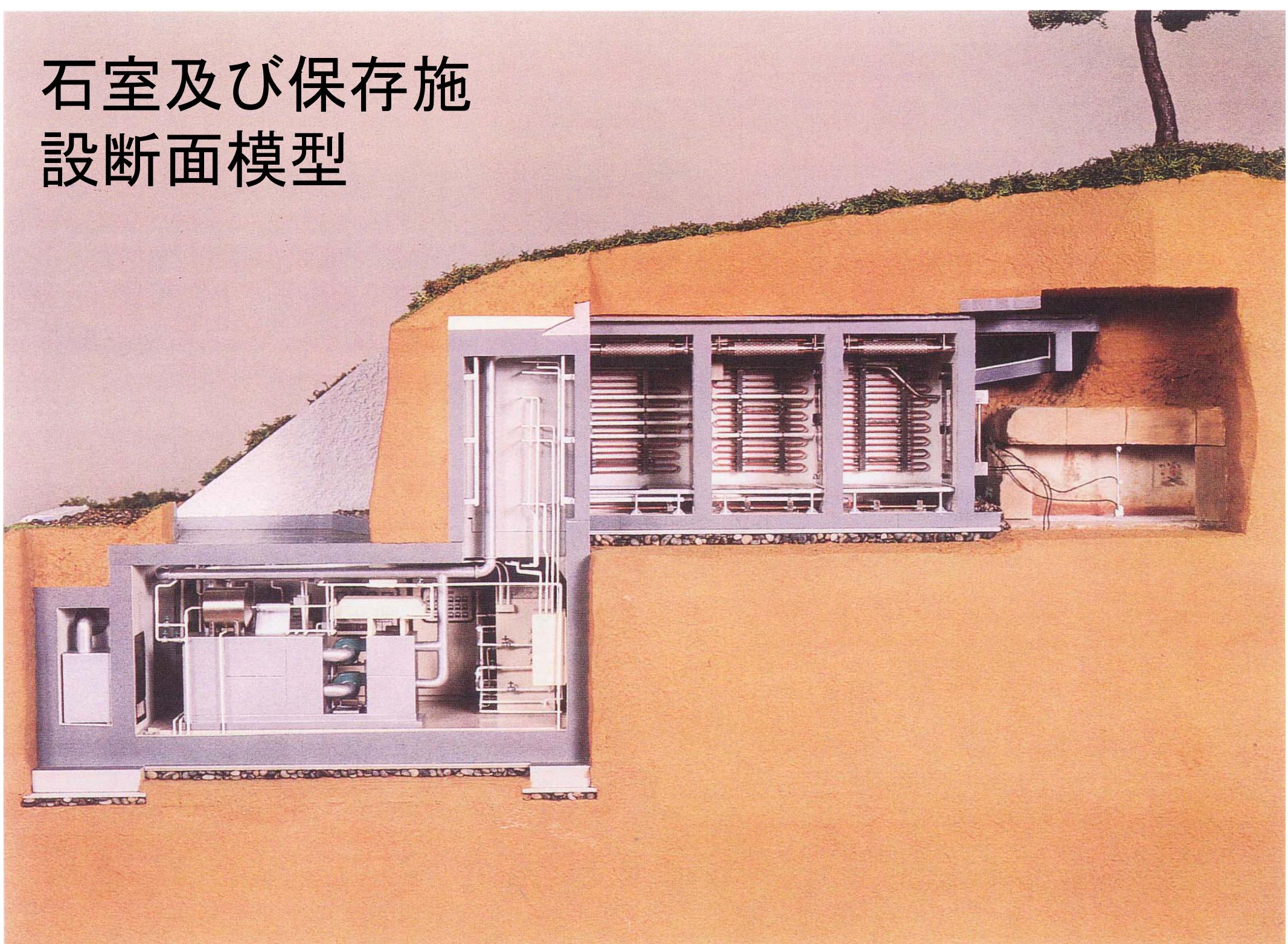
# 石室解体



石室解体後



# 石室及び保存施 設断面模型



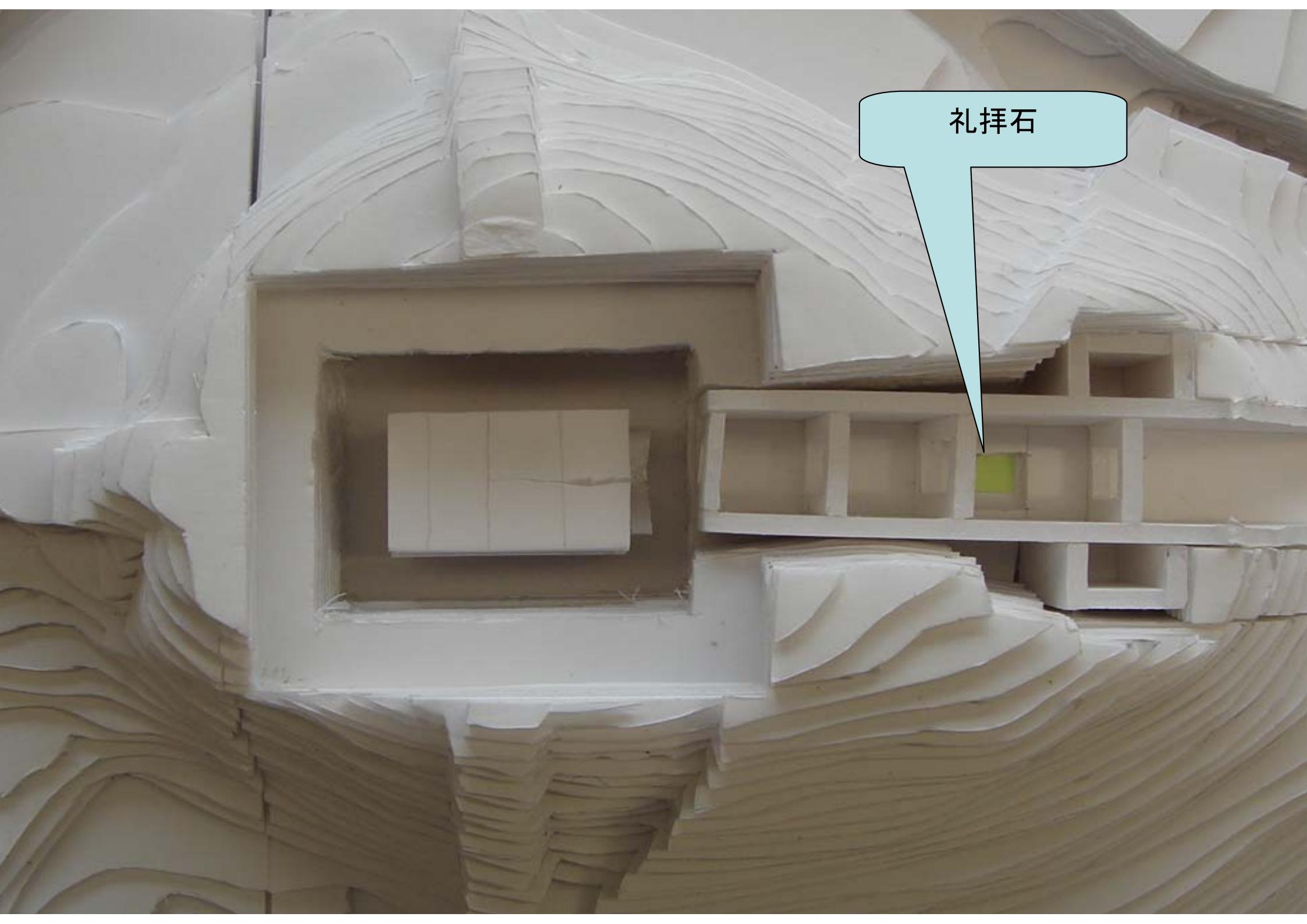
# 石室レプリカ設置

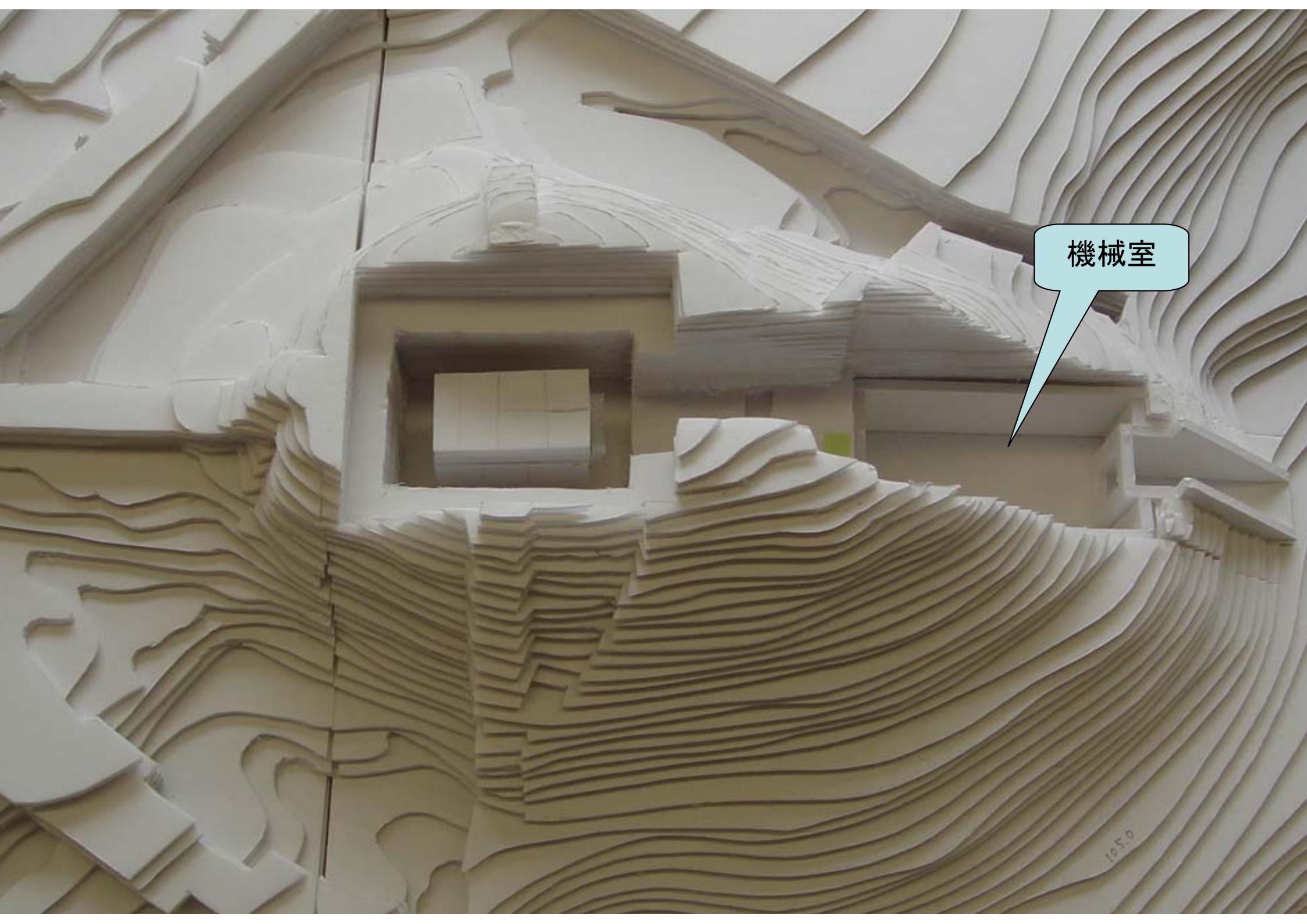
前室

前室

準備室

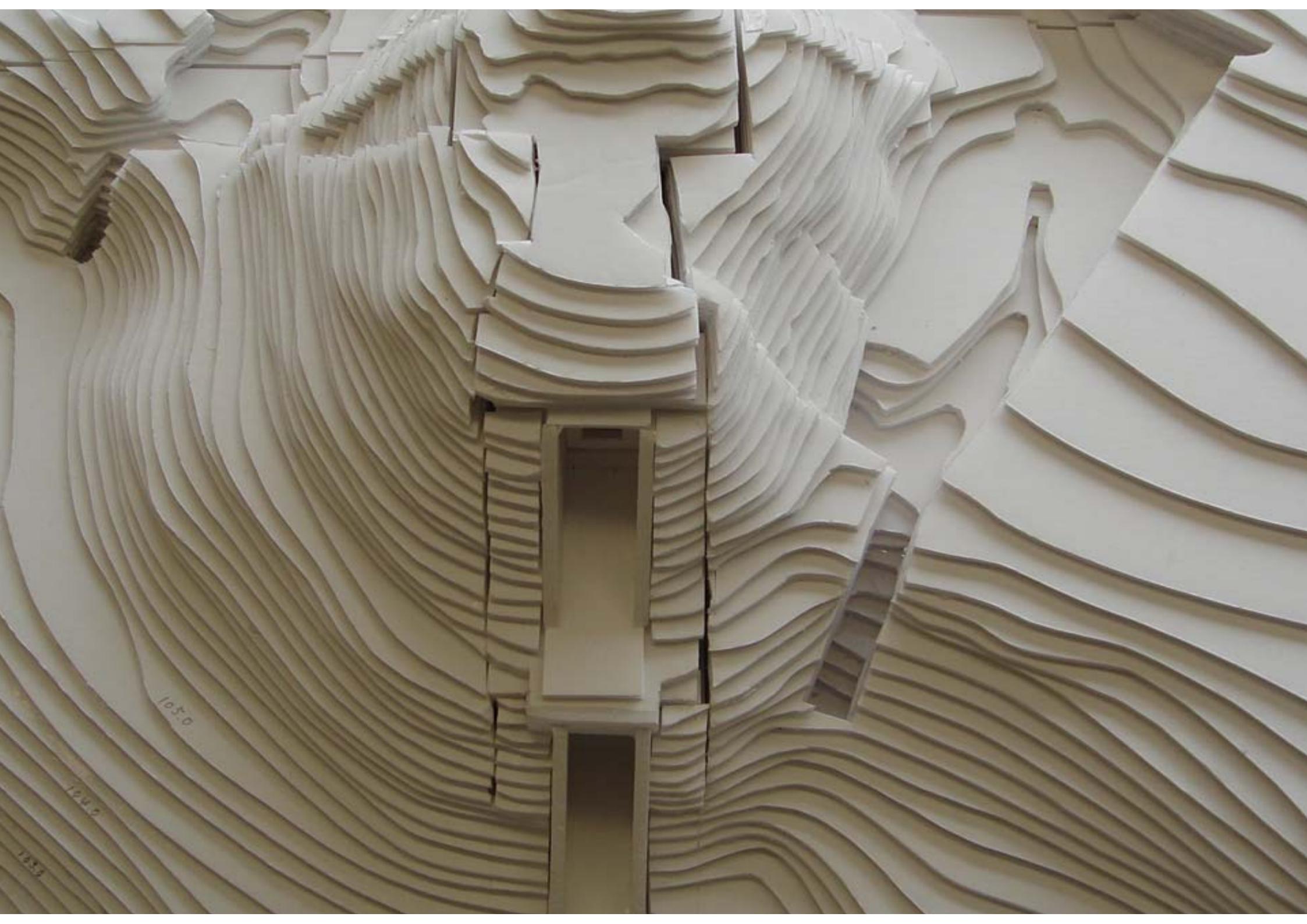
礼拝石





機械室

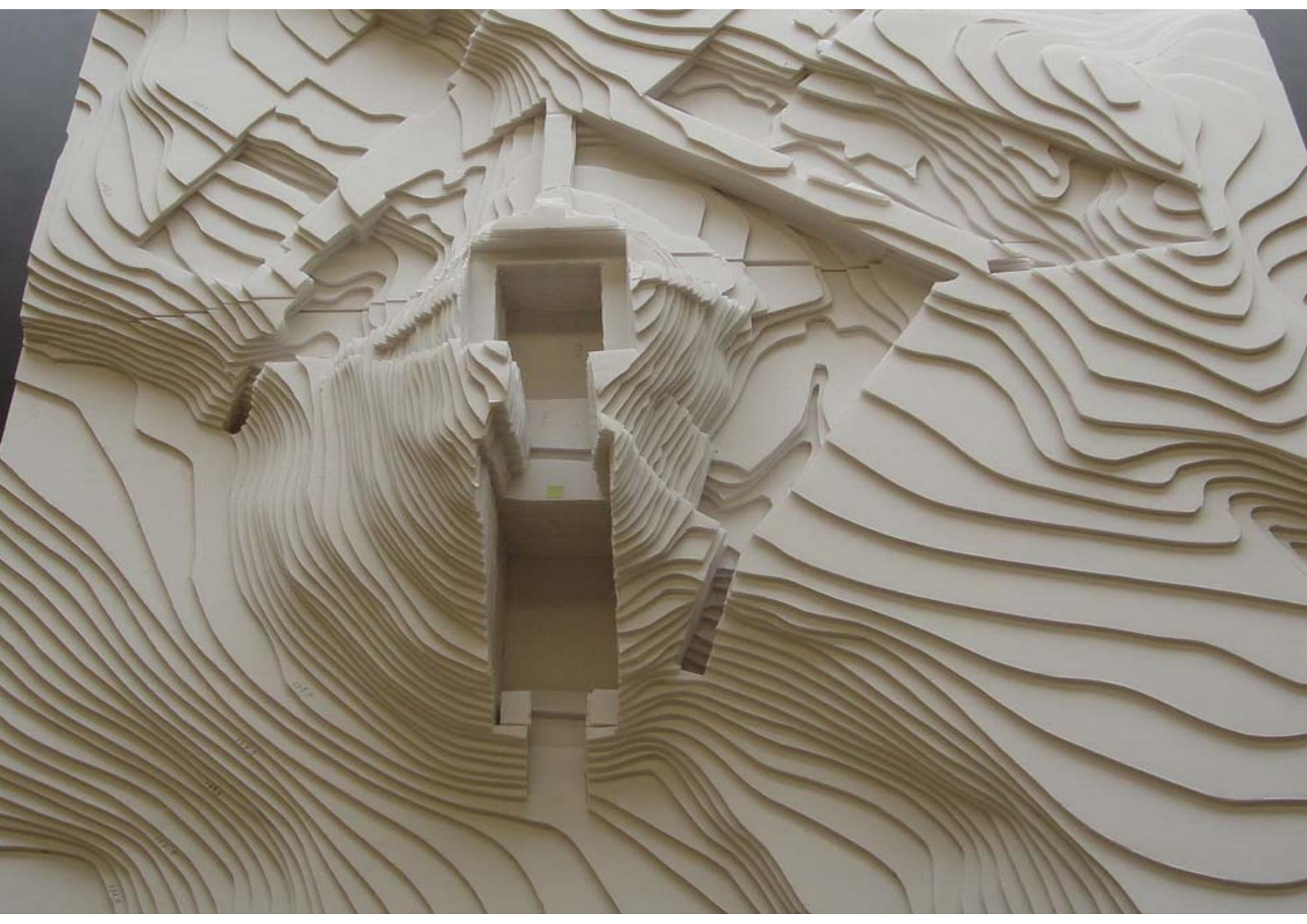
# 保存施設撤去のイメージ

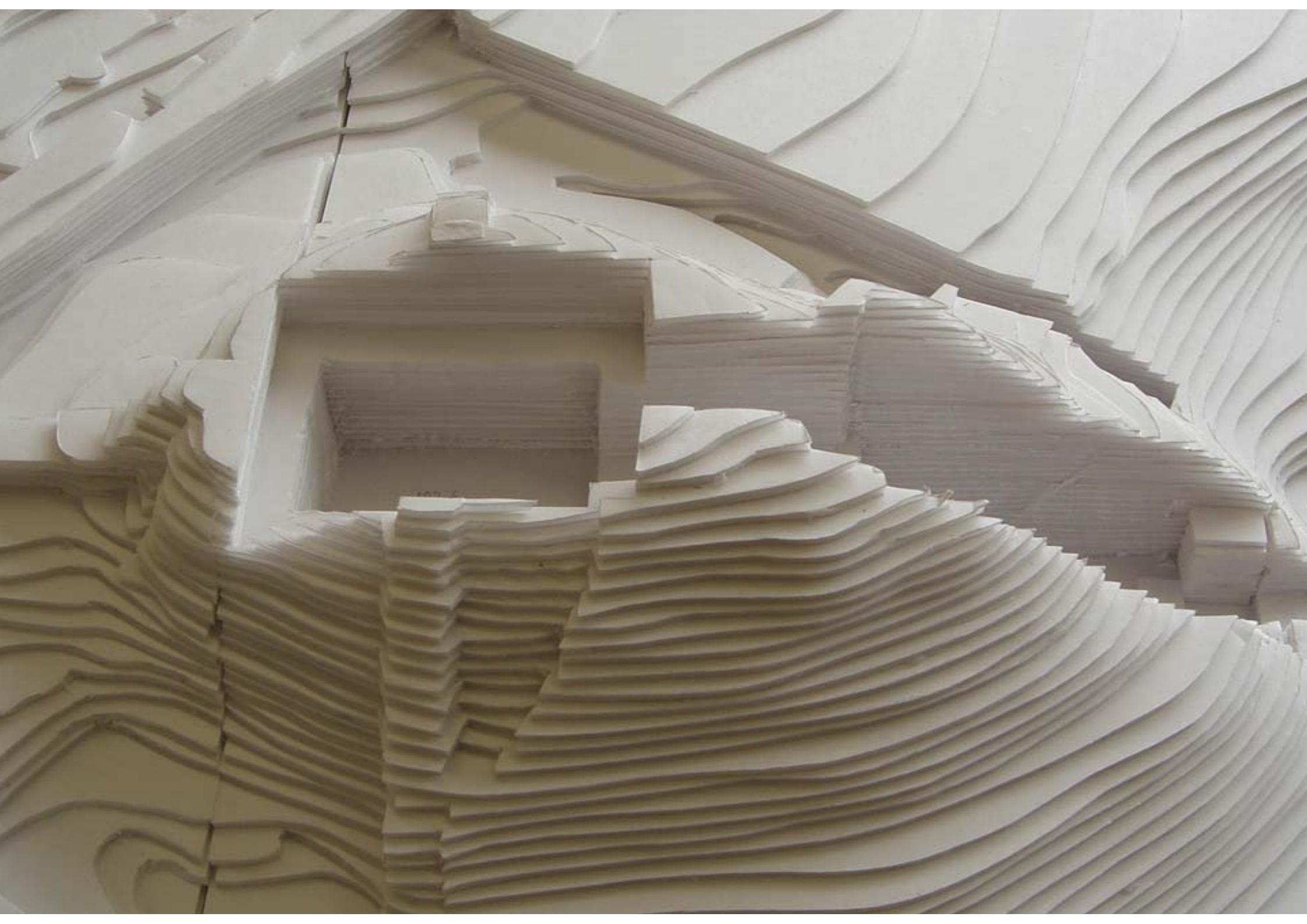


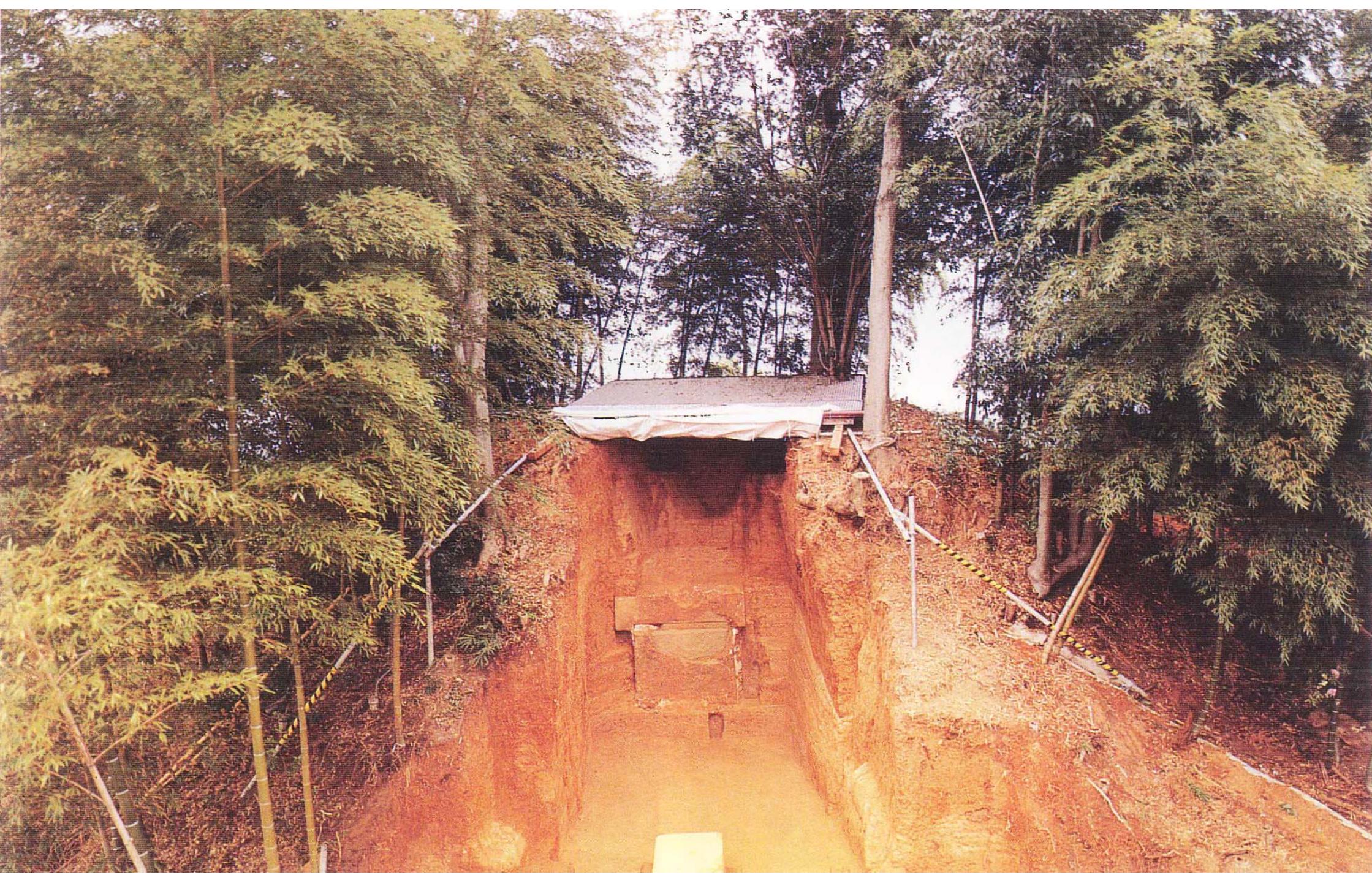
103.0

104.0

105.0

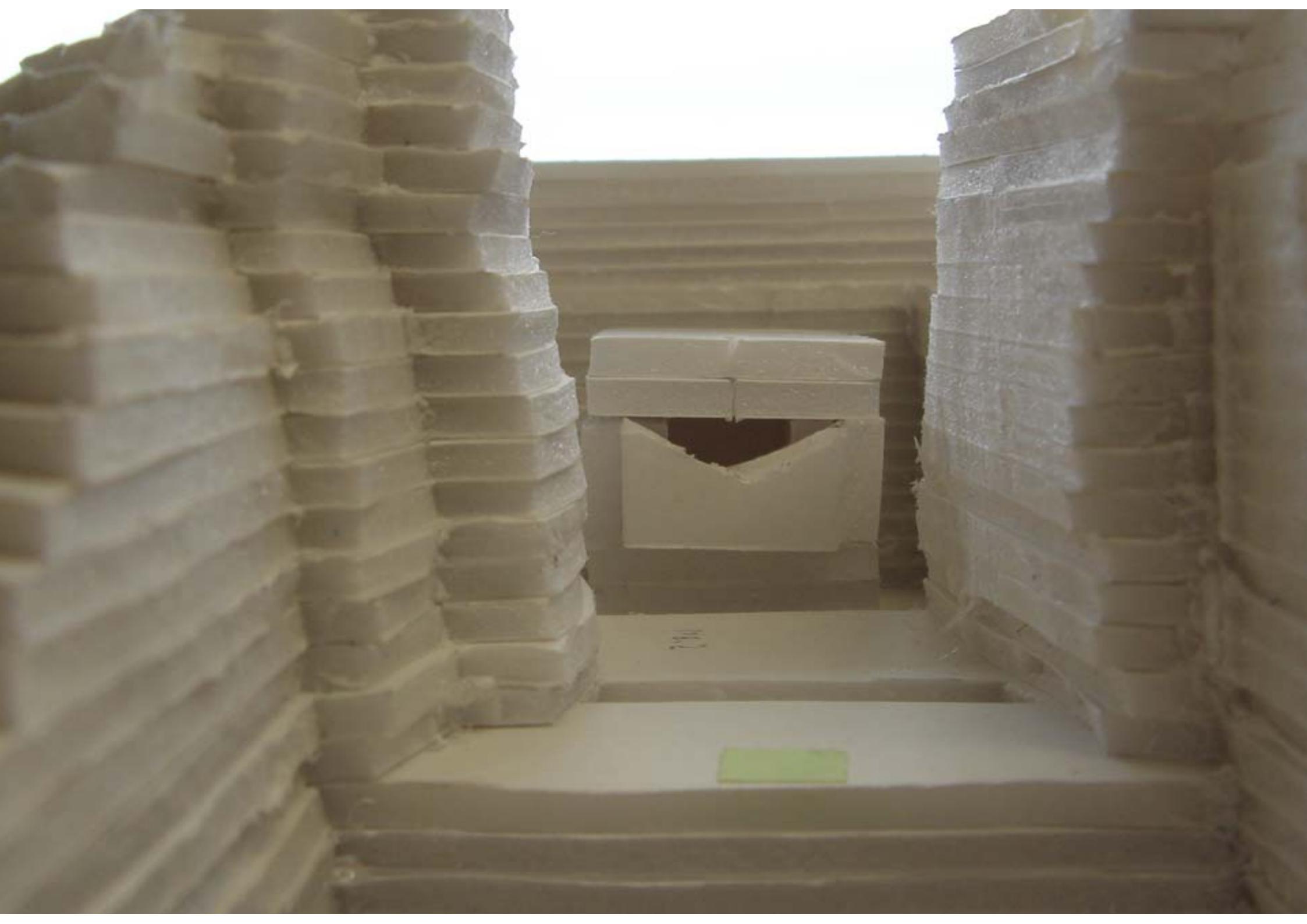


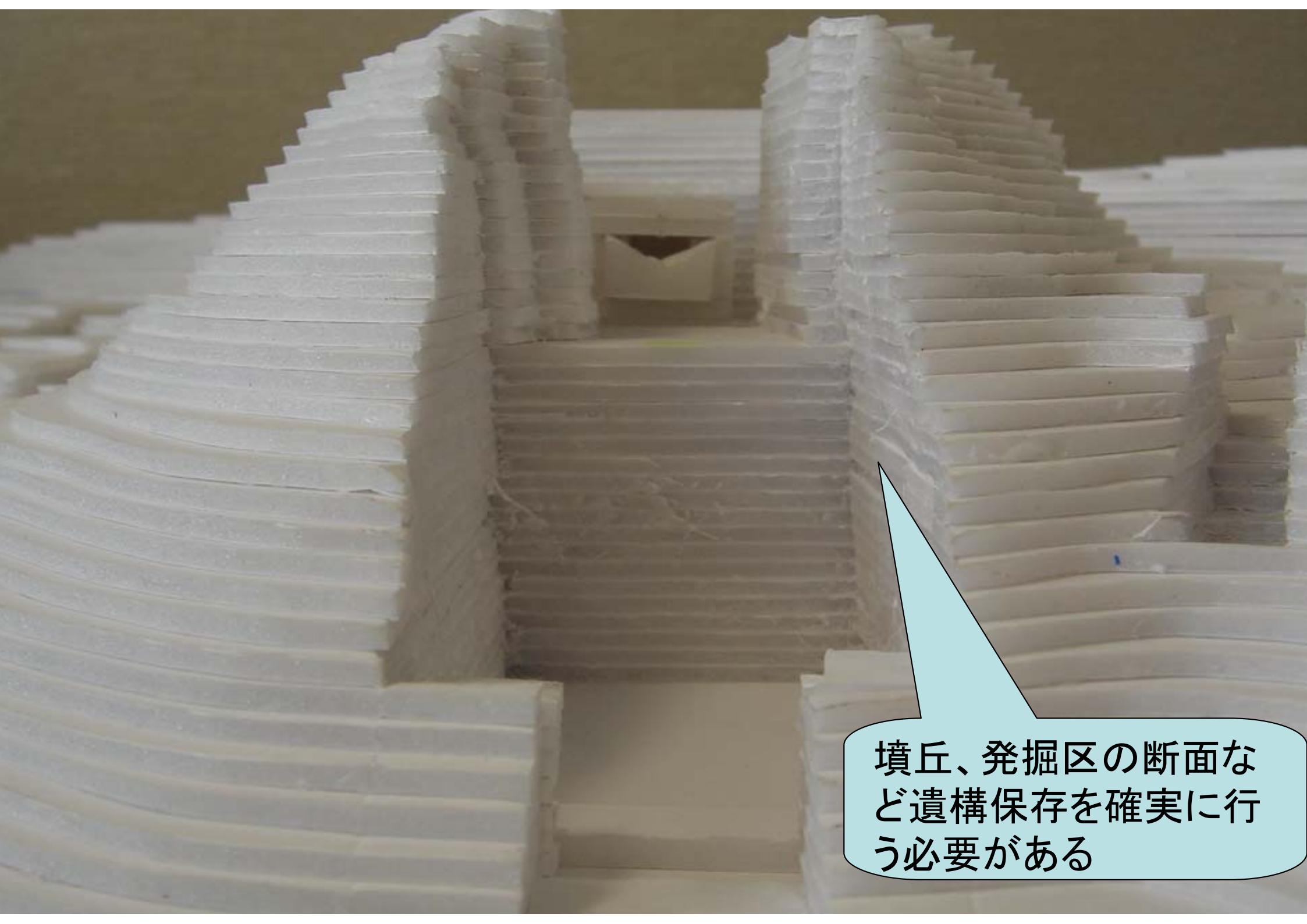






墳丘、発掘区の断面など遺構保存を確実に行う必要がある





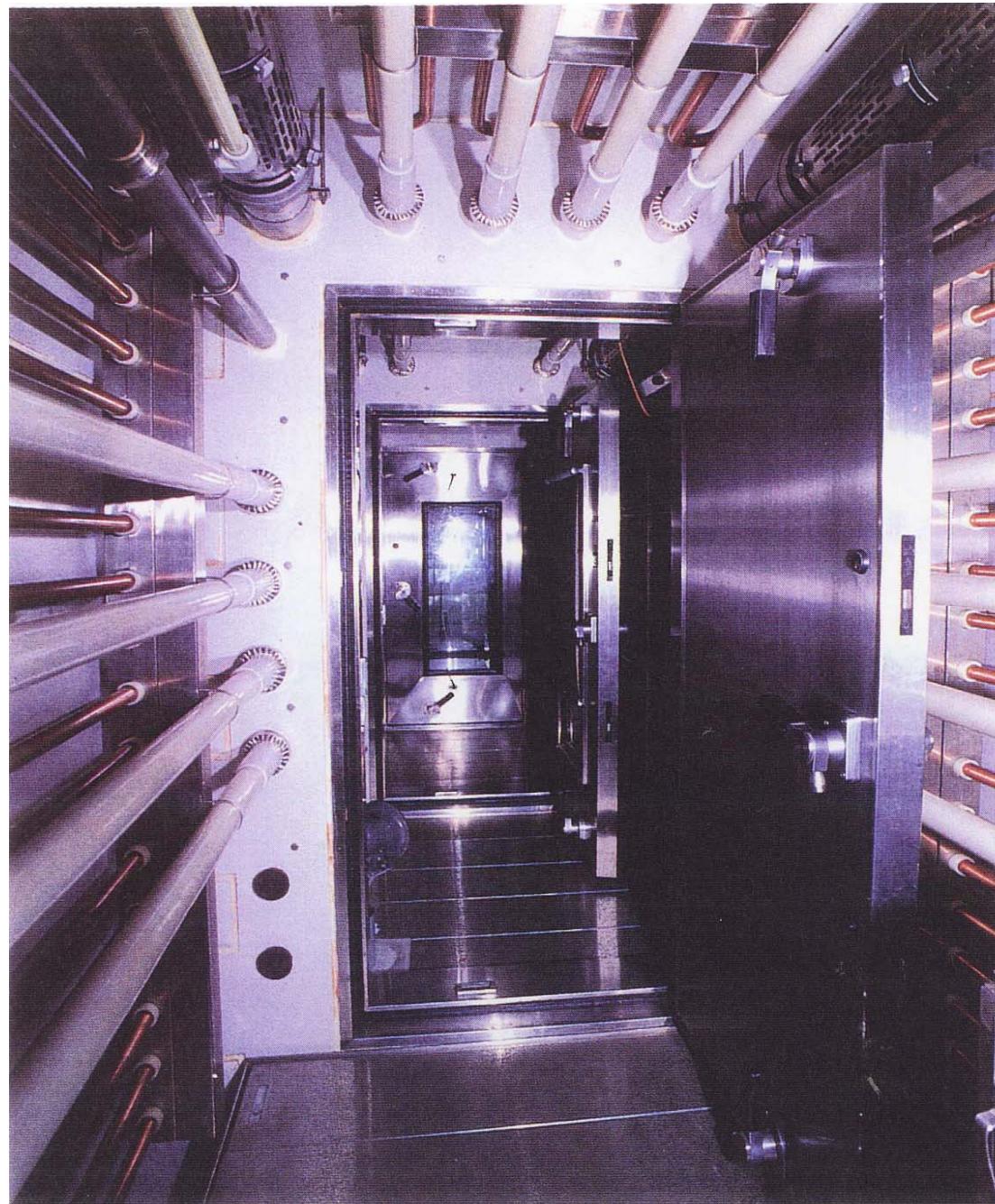
墳丘、発掘区の断面など遺構保存を確実に行う必要がある

# B案(墳丘復元)類例 マルコ山古墳





# C案(転用する保存施設)



# C案(動線のイメージ)

東側広場から  
の導入

